



民数記20章

モーセはなぜ約束の地に入れなかったのか

モーセは約束の地に入れなかった。民20:2-13 ヌリバ'アツ

2018.6.9

Westminster Theological Journal 65 (2003): 135-41
Copyright © 2003 by Westminster Theological Seminary, cited with permission.

SHORT STUDY

WHY DID MOSES STRIKE OUT?
THE NARRATIVE-GEOGRAPHICAL SHAPING
OF MOSES' DISQUALIFICATION IN NUMBERS 20:1-13

JOHN A. BECK

google 3R

なぜモーセは失格ですか？中世のユダヤ人の学者はこの質問を非常に積極的に働いた。彼らの思いやりのある探求は、モーセの失格を説明するために最も頻繁に与えられる10の答えを提供します。

これらのソリューションのそれぞれは、無傷で一貫性のあるテキストを扱っていることを前提としています。

- (1) 問題の答えは、実際には、このテキストでは答えがないということです。言い換えれば、作者はモーセの罪の本質を隠すような方法でこの出来事を故意に再現し、それによって明白な罪がこの偉大な指導者の評判を汚すのを防ぎます。
- (2) モーセは人々に馬鹿げて激しく話しました（詩106:32-33）。
- (3) 神はモーセに一度岩を打つよう命じましたが、岩を二度打ちました。
- (4) モーセは、「この岩からあなたのために水を引き出すのか」と尋ねると、罪を犯した。問題は、疑いやモーセの一部への嫌悪感を反映している可能性があります。
- (5) 第五の説明は、人称代名詞「私たち」に焦点を当てている。「あなたはこの岩の中からあなたのために水を持っていくのか？」「われわれ」がモーセとアロンへの言及であるならば、この代名詞はモーセが奇跡的な力を自分自身とアロンに帰する致命的な代名詞になる。
- (6) モーセは姉の死によって気を散らされ、人々の渇きに無頓着な態度を示しました。
- (7) モーセは人々を恐れ、主の聖所に避難した。彼らの道を離れて。
- (8) モーセは人々が望むもの以外の岩を選んだ。あるユダヤ人の伝統によれば、反政府勢力はモーゼスに対し、「モーセはこの特定の岩の性質を知っています！もし彼が奇跡的な力を証明したいのであれば、この他の岩から水を取り出せ」と言います。
- (9) モーセはそれを話すのではなく、岩を打ちました。
- (10) 人の罪であり、神の裁きを求めたモーセの罪ではありません。モーセ自身は、「主はあなたのためにわたしに怒った」と言いました。（申命記1:37）

これらは、モーセの失格のために最も頻繁に与えられる10の説明です。他に何もない場合、これらの幅広い特有の答えはこのテキストに関連した永続的な課題を指しています。そしてコンセンサスが欠如していることから、私たちは「なぜモーセは打撃を受けたのですか？」

民数記の20章に、モーセが岩を2度打って約束の地にはあなたはいれませんと言われたストーリーは、みんな読んで「えっ、そんなことで、モーセは、あのモーセは入れなくなってしまうのかと、そんなに大変なことなのか。」ということを感じる箇所ですね。

このインターネットで見つけたウエストミンスター神学校の文書で、ジョンベックさんが言うにはいろんな考え方があります。10個にまとめていますね。そもそもそこに答えは書いていないと。モーセはあまりにも素晴らしい人だったから、その罪の細いのは書いてないんですという案が1つ。モーセは106篇の32節、33節に書いてあるように、民に対して悪く言った。言い方が悪かったみたいな感じが2番目。3番目が1回打てばいいのに2回打った。4番目が水を出さなきゃいけないのかと言って出せるかどうか疑っているような、そういう不信仰。5番目が私たちが出すと言って神様がやる話なのに、自分たちがやるかのように言っていると。これが5番目。6番目が20章の最初のところでミリアムが死にますね。ミリアムが死んだばかりなのでちょっと気が動転して言ってしまった。7番目がモーセはそのために殺されると石で打たれそうになるわけでしょう。前のところもそうですが、それで聖所に逃げ込んだというようなこと。8番目はこれは古いユダヤ人の伝統の一つだと言っていますけどその岩から出せるのは知っている。モーセはその岩から出せるのは知っているから、他から出せと言って喧嘩したみた

いな話。9番目は命じなさいと言ったのに叩いたと。命じればよかったのに杖で叩きました。それが問題だと。10番目はそもそもこの申命記1章37節にありますけども、それはモーセの罪というよりは、モーセが罪を負わされたということだというような、いろんな解釈がありますけれどもということで、この人は、自分の解釈を説明してくれます。

モーセは約束の地に入れない 民20:2-13 メリバの水

2018.5.25

あなたがたはこの集會を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。

主の命令は、**「杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませよ。」** 民20:8

モーセとアロンは、**そこでモーセは、主が彼に命じられたとおりに、主の前から杖を取った。モーセとアロンは岩の前に集會を召集し、彼らに言った。「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から、われわれがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」** 20:9

モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、豊かな水が湧き出たので、会衆もその家畜も飲んだ。 20:11

主の怒りの理由は、**あなたがたはわたしを信頼せず、イスラエルの子らの見ていた前でわたしが聖であることを現さなかった。** 20:12

なぜ？

●詩106:32-33 彼らはメリバの水のほとりで主を怒らせた。モーセは彼らのゆえにわざわいを被った。彼らが主の御霊に逆らったとき彼が軽率なことを口にしたのである。

・私を信ぜずー逆らう

アロン
わたしはイスラエルの子らに与えた地に入ることはできない。それはメリバの水のことで、あなたがたがわたしの命に逆らったからである。民数記 20章24節
ツィンの荒野で会衆が争ったとき、あなたがたがわたしの命令に逆らい、彼らの見ていた前で、あの水のところで、わたしが聖であることを現さなかったからである。」民数記 27章14節

モーセ
主はあなたがたのゆえに、この私に対しても怒って言われた。「あなたも、そこに入れない。申命記 1章37節

ツィンの荒野のメリバテ・カデシュの水のほとりで、イスラエルの子らの間でわたしの信頼を裏切り、イスラエルの子らの間で、わたしが聖なる者としなかったからである。申命記 32章51節

・アロンの杖
民17:

アロンの杖をあかしの箱の前に戻して、逆らう者たちへの戒めのために、しるしとせよ。彼らの不平をわたしから全くなくせ。彼らが死ぬことのないようにするためである。」民数記 17章10節

そもそもこの命令ですね。10章のいろんな箇所を見ないといけないですね。こういう分からないところは簡単にパパパと、ここだけ見てわかるものでもないってことですよね。丁寧にクロスリファレンスを見たりして参照しなきゃいけない箇所というのを洗い出して、比べて何を言ってるんだろうかということを見ていかなくてはいけません。結構たくさんありました。ここに出しているだけではありません。意外とその事件の事は、何度も言われたりします。命令自体は「あなたはつえをとり兄弟アロンと一緒に会衆を集めて、会衆の前で岩に命じて水を出させなさい。こうしてあなたは彼らのために岩から水を出して会衆と家畜に飲ませなさい。」と言ったわけですね。それは会見の天幕の入り口に行って、主の栄光の雲が現れた。そこで主は言っていると。そこにこのつえが置いてあるんですね。そこで言われたことに対して、モーセとアロンは何をしたのかと言うと、モーセは命じられたように主の前にあるこの会見の天幕にあるつえを取りました。モーセはアロンと共に会衆を岩の前に集めて彼らに言った。この10節と11節のところをやったことですね。「背く者たちよ逆らう者たちよ、さあ聞け。この岩から我々があなたがたのために水を出さなければならないのか。モーセは手を上げて彼のつえで岩を二度打った。すると豊かな水が出てきたので会衆もその家畜も飲んだ。先ほどの10個に追加すると、この「手を上げて」これが問題だったという人もいますね。手を上げてと言われてないのに、手を上げたみたいなのと言う人もいました。神様はそれで怒って答えるわけです。「あなたがたは私を信じないで、イスラエルの人々の前に私を聖なるものだということを現さなかったから、会衆を約束の地に導き入れることはできません。」というのが、神様のモーセに対する怒りの理由ということです。

入れなくなった理由は、私を信じなかった、信頼しなかった。それと、イスラエルの子らの前で聖であるということを現さなかったというこの二つを言われていますけれど、何故この逆らう者たちよ、さあ聞けのところ、岩を2度打ったというところがこの信頼しないことと聖であることを現さなかったということで、どうつながってるんだろうかということを探らなきゃいけないということになります。

・詩106:32-33

彼らはメリバの水のほとりで主を怒らせた。モーセは彼らのゆえにわざわいを被った。彼らが主の御霊に逆らったとき彼が軽率なことを口にしたのである。

・私を信ぜず - 逆らう

アロン
わたしがイスラエルの子らに与えた地に入ることはできない。それはメリバの水のことで、あなたがたがわたしの命に逆らったからである。民数記 20章24節

ツィンの荒野で会衆が争ったとき、あなたがたがわたしの命令に逆らい、彼らの見ている前で、あの水のところで、わたしが聖であることを現さなかったからである。」民数記 27章14節

モーセ
主はあなたがたのゆえに、この私に対しても怒って言われた。「あなたも、そこに入れない。申命記 1章37節

ツィンの荒野のメリバテ・カデシュの水のほとりで、イスラエルの子らの間でわたしの信頼を裏切り、イスラエルの子らの間で、わたしを聖なる者としなかったからである。申命記 32章51節

・アロンの杖

民17:

アロンの杖をあかしの箱の前に戻して、逆らう者たちへの戒めのために、しるしとせよ。彼らの不平をわたしから全くとくなくせ。彼らが死ぬことのないようにするためである。」民数記 17章10節

私達の分析の時に鍵になる説として、詩篇の106篇、107篇、95篇、105篇、81篇、114篇。詩篇の中に何度か引用されますけれど、この106篇にこういうところがあるんですね。「彼らはメリバの水のほとりで主を怒らせた。モーセは彼らのゆえに災いを被った。彼らが主の御霊に逆らった時、彼が軽率なことを口にしたのである。」「彼は軽率なことを口にした」というこの言い方ですね。これを見ると2回打ったかどうかということよりも、この「逆らう者たちよ、さあ聞け」こちらの文章の方が、どうもこの信頼しない、聖であることを現さないということにつながっているのではないかと考える鍵になった詩篇の箇所です。ですから、そのさっきの10個の例でいうと、1回じゃなくて2回打ったとか、そういうことではないというのが、こういう箇所で見られるかと思えます。命じないで叩いたからだということも、ここで言われているのとは違うかなと。ただ2回打ったり、言えばよかったのに杖を使ったとかというのは、この文章を言っているその背景としてのモーセの状態、精神的な思いの信仰の状態を表している行動として、これに現れているという事はそうだと思いますけども、特にこの何を言ったのかというところが問題になるんだと思いますね。

20章24節のところで、その後にねアロンが死ぬところですね。どうして入れないのかというと、あなたが私の言葉に背いたからだ、私の命令に逆らったので入れませんでしたと。27章でモーセが死ぬところで、あなたが私の命令に逆らったので、そして水のところで私が聖であることを現さなかったので入れないんですということを言われています。それと申命記32章、申命記の終わりのほうです。そこでメリバの水のほとりで、イスラエルの子らの間で私の信頼を裏切り、イスラエルの子らの間で私を聖なるものとしなかったからであるという事を、後でもう一度言っていますので、この信頼しない、聖であることを現さないと。信頼しないということを別の言い方で言うと、「逆らった」言葉に逆らったということになるかと思えます。命令に逆らった。どういうふうに逆らったのかということなのですけども、まず「杖をとって」の箇所なんですけど、この杖は何なんだろうと言うことですね。その前に、当たり前であるかのような感じなので、今回はここで言ってませんけれど、

思い出すストーリーみたいのがあるわけです。これがどうやって取り扱っていったかという順番なんですけども、すぐに思い出すストーリーは、出エジプトの17章ですそれはエジプトから出て1年目ですね。もうすぐに水がないという、苦い水が甘くなったマラの水。そして少し行ったらまた水がないと言って岩から水を出しましたというストー

リーが17章にあります。この時はナイルを打った杖を使って、岩を打ちなさいと言われて、岩を打って水が出ましたというこのストーリーを思い出す。これは思い出さなきゃいけないところだということはそうですが、もう少し丁寧に見ていこうということです。この時の杖と20章の杖は別の杖ですね。この杖はアロンの杖と言われているもので、これは17章に、ずっと民数記の中で、従うのか逆らうのか、神様に従うのか逆らうのかということをリーダーに従うのか逆らうのか、リーダーの権威を認めるかどうかということが、ずっと取り扱われています。モーセとアロンの権威、そもそも、この民数記の20章の最初で死んだミリアム。これもアロンとミリアムが一緒になって、モーセの権威に逆らうということでしたよね。その後何度かコラの反乱、(どこの場所って言えばいいんですかね忘れてしまいました。カタカナでその場所)の時にも、250人が火皿を持って戦いましたよね。その後、このアロンの杖があるのです。部族が集まって、誰がリーダーなのかと言った時に、神罰があつてさばかれました。(民数記16:30)。そして17章で、12本の杖をとって名前をつけてアーモンドの実を結ぶと、そのアロンの杖だけ芽を出し、蕾を出し花をつけ、アーモンドの実を結びましたというストーリーがあります。この杖をここで命じられるわけですね。「その杖をあかしの箱の前、会見の天幕の中にある契約の箱の前に置いて、それで逆らう者達への戒めのためしるしとせよ。彼らの不平を私から全くなくせ。彼らが死ぬことのないようにするためである。」(民数記17:10)これがこの杖の役割です。逆らう者たちの戒め、その杖を持ってその権威を表すことによって、彼らがそれを信じて彼らが死なないようにするための杖だったということです。この杖を持って出なさいと。それで契約の箱があるところから、取り出して集めて言うわけです。ここで気がついたかと思うのですが、アロンの杖のところ、「逆らう者たち」と言い方が出てきました。それで、モーセとアロンは「逆らう者たちよ」という言い方をして、その人たちのことを言います。ですが、入れないというところにアロンは私の命令に逆らった。モーセも私の命令に逆らった。これが同じなんですね。「逆らう者たちよ」と言っているこのモーセとアロンは、神様に逆らったと。実は自分たちが逆らってるということになっているということは、このことは同じですので思わされるところです。

そうすると、この出エジプト記17章の岩から水を出しましたというところと、この民数記20章を見たときに、それでもよくわからないですね。「逆らう者たち」と。なぜそれがいけないんだろうかということが分からず、他の申命記の箇所を見たり、申命記の最初の方での岩から水を出しこうしましたという箇所を見たりしたんですけど、なかなかよく分かりませんでした。

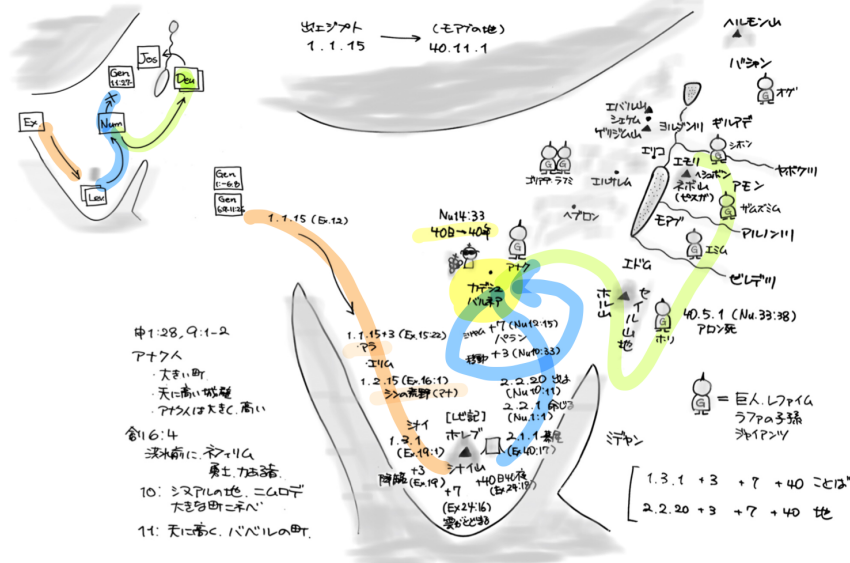
もう一つ思い出さなければならないストーリーというのがあったということがわかりました。民数記は半分ずつなのですね。1章から19章までと20章からと。1から19までは最初の2年くらいのことしか書いてないんです。そこからいきなり38年飛んでミリアムが死んだというところから後半に入ります。岩から水を出したところということで、出エジプト記ですから、出たところですね。民数記の20章。民数記の20章というのは、荒野をさまよって、ですから、いよいよ40年目ってことですね。荒野の40年の終わるところで、また同じことをしてるということなんです。岩から水を出した初めのストーリーは、出エジプト記17章。出たばかりのエジプトを出て1年目で、今回は40年目。20歳以上の人たちは荒野で死にましたので、古い世代の人達はもういないんですね。新しい世代になったのに、また同じことしましたという非常に残念な、がっかりするよね。モーセもね。それはもちろん同情できます。これは、ひどい話だと思いますけど、その場所がどこのかということが大切なところだということです。

モーセは約束の地に入れない。民20:2-13 ヌリバネ

2018.5.25

あなたがたはこの集會を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。

カデシュ・バルネ



この場所(地図)が、カデシュという場所なのです。40年目に水を出したのは、カデシュという場所です。カデシュという場所は、聖である「カドウシュ」です。聖なる場所という名前の場所なんです。それはエジプトから出ました。ここでマラの水があり、ここで最初のマサの日のようにと言われるところですね、ここで水の話ここで岩から水を出して、ホレブの近くですね。ホレブの岩のところとされます。この辺で。それで命令を頂いて2年目にここから出ていくわけです。出て行った時に、このカデシュバルネアと。バルネアの聖なる地というところですね。ここに陣営が留まって、それで彼らはパランのツインの荒野とか、荒野がいくつか大きな荒野の間にあるので、ツインの荒野のカデシュって言われたり、パランの荒野のカデシュと言われたりするようですが、このカデシュというところにモーセとアロンとイスラエル全会衆がいたと。それで、ここから約束の地を偵察に行くわけです。12人の偵察隊が行きます。偵察隊が行くのですが、素晴らしい場所でしたということを見てくるにもかかわらず、「こりゃ無理だと。これはでかい奴らがいっぱいいて、この地には入ってはいけません。戦えません」ということを10人の人が言う。2人を除いて。それで、わざわざ連れ出して、モーセとアロンを石で打ち殺そうと言うとすると主の栄光が会見の天幕から、全てのイスラエルの子らに現れて、主はモーセに言う。「この民はいつまで私を侮るのか。私がこの民の間で行ったすべてのしるしにも関わらず、いつまで私を信じようとししないのか」と言って、40日間のものが40年になり、荒野をさまよわなければならないという裁きの宣言が、このカデシュであるわけです。それに対して、モーセは何を言ったのかと言うと、モーセはここでとりなすんです。それが礼拝の時に読まれたりする箇所ですね。「主は怒るのに遅く、恵み豊かであり、咎と背きを赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰し、父の咎を子に報い3代4代に及ぼす。この民をエジプトから今に至るまで耐え忍んでくださったように、どうかこの民の咎をあなたの大きな恵みによってお赦しください」

い。」とここでモーセはとりなしをします。そうすると主は、「あなたの言葉通りにします。私は赦します。でも、私は生きていて、主の栄光が全知に満ちている以上私の栄光と私のエジプトとこの荒野で行ったしるしを見ながら、10度もこのように私を試み、私の声に聞き従わなかった者たちは、誰一人私が彼らの先祖たちに誓った地を見ることはない。私を侮った者たちは、誰一人はそれを見ることはありません。」神様を蔑んだ者たちは、40年歩くのですけど、その中で死にます。憐れみによって赦しますけれども、入ることはできませんと言われたのがエジプトを出て2年目になります。

モーセは約束の地に入れない。民20:2-13 ×リバオオ

2018.5.25

あなたがたはこの集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。

カデシュ・バルネフ

・モーセとアロンは 何に 逆らったか？

・岩から水を出した話のストーリーは エジプトを出て2年目。

・今回は、40年目。古い世代が死に、新しい世代となっていた。

・カデシュ (聖なる地という意味) は、38年前に失敗した場所。 cf 創13:1-14! テラハの墓

彼らは、バランの荒野のカデシュにいるモーセとアロンおよびイスラエルの全会衆のところにやって来て、二人と全会衆に報告をし、その地の果物を見せた。民数記 13章26節

10人の使察は

しかし全会衆は、二人を石で打ち殺そうと言いつつ出した。すると、主の栄光が会見の天幕からすべてのイスラエルの子らに現れた。主はモーセに言われた。「この民はいつまでわたしを侮るのか。わたしがこの民の間で行ったすべてのしるしにもかかわらず、いつまでわたしを信じようしないのか。」民数記 14章10～11節

モーセが祈った

20:12 「主は怒るのに遅く、恵み豊かであり、咎と背きを赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰し、父の咎を子に報い、三代、四代に及ぼす」と。この民をエジプトから今に至るまで耐え忍んでくださったように、どうかこの民の咎をあなたの大きな恵みによって赦してください。」主は言われた。「あなたのことばどおりに、わたしは赦す。しかし、わたしが生きていて、主の栄光が全地に満ちている以上、わたしの栄光と、わたしがエジプトとこの荒野で行ったしるしを見ながら、十度もこのようにわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかった者たちは、だれ一人、わたしが彼らの先祖たちに誓った地を見ることはない。わたしを侮った者たちは、だれ一人、それを見ることはない。民数記 14章18～23節

・荒野の訓練のスタート地点にもどってきた。いよいよ約束の地に入るはず

イスラエルの全会衆は、第一の月にツインの荒野に入った。民はカデシュにとどまった。民数記 20章1節

しかし、モーセとアロンは、民を見たとおぼしめした。民14:4-

主が聖なる方であり(決して見放さず)ともし(子)ことを信じなかった。しかし....

まさに10人の使察と同じように... 民を導き入れることはできない...

エジプトを出て2年目にその事件があって、ここを後にしてさまようわけです。荒野をさまよって38年経ちました。いよいよ約束の地に入るはずの時が来ました。それで、民数記20章の最初を見ると、1月にツインの荒野に入った。そして、民はカデシュにとどまった。ずっと回ってここ(カデシュ)に戻ってきたんです。このカデシュ。カデシュに戻ってきて、その出来事の罰を38年間一緒に歩んできて、ここで全イスラエルが新しくよみがえったみたいですよ。人数的にも60万人からまた60万人に戻っています。そのカデシュに来て、神様は「岩から水を出さない」とエジプトから出た時のことを思わせるような出来事があり、これからいよいよ入っていく最初にこの事件が起きたと。何がモーセは信じなかったのかということとその出来事を考えると、この場所はその荒野のスタート地点でしょ。あの大きな人達、あんなところに入って行って無理無理と信じないから、神様共にいるよって言っているのに、それを信じないということがこの最初のカデシュでの裁きでした。

モーセとアロンはそれを知っているのです。もちろん知っている。それで歩んできたことも知ってる。モーセとアロンは、その新しくなった民を見て、「これは無理。この

人たちを連れ出すことはできません。」と諦めちゃった。主は聖なる方であるというのは、決して見放さず、共にいると、その約束は絶対に果たされますよと言われている。その聖なる方の誓いは確かだということをあらわさなきゃいけなかったのに、それを、軽率にも信じないということをやっちゃった。まるで10人の偵察の入れないよって言った人達と、導き入れるはずの人たちの罪と同じ側に、モーセとアロンが立ってしまった。あなた方は入れないとは言っていないですね。あなた方は民を導き入れることはできません。リーダーとして失格ですと。厳しいよね、厳しい。その民は死んでしょ。入れなかった。やっぱり、その同じことをやってしまったモーセとアロンも入れなかった。その言われていた通りになってしまったという、極めて重い裁きをモーセとアロンは受ける。もちろん民の代表として、受ける者なので、モーセとアロンの罪がひどすぎて、ひどすぎてということではないということはもちろん思います。

モーセは約束の地に入れない。民20:2-13 メリバの地

2018.5.25

あなたがたはこの集會を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。

ダビデ・バルネ

・父から子への継承 / 父が死んだ子への復讐

・20歳未満の者は残された

この荒野におまへたちは、屍をさらす。わたしに不平を言った者で、二十歳以上の、登録され数えられた者たち全員である。エフネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアのほかに、おまへたちを住まわせるとわたしが誓った地に、だれ一人入ることはできない。民数記 14章29〜30節

・アロン - エルアザル

あなたはアロンと、その子エルアザルを連れてホル山に登れ。アロンの衣服を脱がせ、それをその子エルアザルに着せよ。アロンは自分の民に加えられ、そこで死ぬ。」民数記 20章25〜26節

・モーセ - ヨシュア

「すべての肉なるものの霊をつかさどる神、主よ。一人の人を会衆の上に定め、彼が、彼らに先立って出て行き、先立って入り、また彼らを導き出し、導き入れるようにしてください。主の会衆を、羊飼いのいない羊の群れのようにしないでください。」

(ダビデ・ソロモン)

主はモーセに言われた。「あなたは、神の霊の宿っている人、ヌンの子ヨシュアを連れて来て、あなたの手を彼の上に置け。民数記 27章16〜18節

・主イエスから神の子へ
(大祭司の死)

モーセは、後に語られることを証しするために、神の家全体の中でもべとして忠実でした。しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうなのです。ですから、聖霊が言われるとおりです。「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なに立てはならない。荒野での試みの日に神に逆らったときのように。あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た。だから、わたしはその世代に憤って言った。『彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない。』わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れない。』」

信じる人々

ヘブル人への手紙 3章5〜11節

あなたがたの心を頑なに立てはならない。メリバのように荒野のマサでの日のように。詩篇 95篇8節

でも、神様はその中で大きな恵みをあらわしてくれる。父から子への継承、父が死んだ。しかし子らは復活するんです。荒野で20歳未満の人達は残されて大人になっている。アロンが死んだところ20章、そのすぐ後に、エルアザルを連れて山に登ってください。相続する子どもが選ばれて死にますね。モーセが死ぬところ、そこもヌンの子ヨシュアを連れて任命しなさい。ちゃんとこのエルアザル、ヨシュアという神の約束、子孫が与えられないかのような感じですけども、子孫がちゃんとアロンが死んでも復活して相続されていっている。その相続された人たちが次の代として戦っている。まるで、ダビデは神様の家を建てたいと言ったけれども、あなたではないです。あなたの子ソロモンが建てますと言って、材料を全部揃えたけど、ダビデはその神殿を見ないで死んだわけですね。約束の地に入らないで…みたいな感じ。アロンは大祭司です。アロンは大祭司なので、死んだら全て贖われると。その大祭司の死によって命が継承されていく

と。主イエスは祭司ですから、祭司である主イエスの死によって、神の子らに相続されていきました。

ヘブル人への手紙で、詩篇95篇が「今日と言われている間に」と言われて95篇が引用されますけれども「メリバにいた時のように、荒野のマサにいた日のように、心をかたくなにしていけない。あなたは私を試み、私を試した」と。みわざを見たのに。それで決して安息に入れないというこの95篇を、ヘブル人への手紙で引用します。そこではメリバの日とマサでの日という引用をしないんだね。それは70人訳が違うのかもしれないんですけども、「荒野での試みの日に、み怒りを引き起こした時のように」というこの荒野での試みの日に、神に逆らった時のようにということが言われています。この箇所を引用するところで

モーセは後に語られることを証しするために、神の家全体の中でもべとして忠実でした。しかし、キリストは御子として神の家を治めることに忠実でした。私たちが神の家です。もし、確信と希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうである。神の家に入るという確信。救われて約束の地に入れるという確信を最後まで持ち続けるならば、神の家となります。

それで、信仰の先祖たちはその戦いをしました。信仰の先祖たちは戦いましたが、誰も約束の地に入っていないのです。約束の地に入っていないで、遥かにその先を望んで、信仰の先祖たちは死んでいきました。同じような感じですね。信仰の父たちも、約束の地に入るということを望んでいましたけど、入れませんでした。その入れなかったと言われている新しい約束の地に、私たちは入っていく。キリストの血と洗いによってというのが、このヘブル人への手紙で言われていることですね。「父たちは信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでした。はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であるということを告白していました。神様はさらに優れた故郷、すなわち、天の故郷に憧れている者たちを絶対に恥としないで捨てません。」その信仰を持って戦って入っていったモーセとアロン。自分たちは死にますけれども、次の世代がちゃんと整えられて戦って入っていく。その戦って入っていくところで失敗した同じ場所で、モーセとアロンは、本来は主に信頼して、その民も神様が導くと言わなければいけなかったところを軽率に反応してしまったとこの箇所が言われている。聖なることというのは、神様は絶対に一緒にいると、共にいるということとその杖があらわしてるわけでしょ。そのことをあらわさなかったということで、この「背く者たち、逆らう者たちよ聞け。お前らは無理だ」と言ってるこの言い方自体で、自分が信頼していないということをあらわしてしまったという出来事なのではないかというふうに思います